

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000039		
法人名	有限会社ライジング		
事業所名	グループホームはるる		
所在地	北海道常呂郡訓子府町字穂波67番33		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

はるるでは入居されている方がいつも安心出来るような、暖かいケアと家庭的な雰囲気があるよう日々取り組んでいます。フロアでは季節感を大事にし、装飾と香りや音にも配慮しています。また、それぞれの方に炊事や掃除、畑仕事等と一緒に頂くことで、自己決定を行いながらその人らしく生活を送れるよう支援しております。

地域と共にある施設であるよう、ご家族や地域の方々との交流を大事にし、行事や会議等では多くのご協力を得られています。またデイサービスが併設されており、友人やご家族の来所時には好きな時に行き来して頂き、交流を図る事が出来ます。

施設長が行う地域での認知症の講演など、地域と連携を図りながら認知症の知識を深める事が出来るよう、職員も定期的に研修等へ参加しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195000039&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成24年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームはるるは、平屋建て2ユニットとなっておりデイサービスが併設されています。周りは、住宅と農地が程よく調和した自然豊かな環境にあります。基本理念の『個人として尊重し、尊厳を維持しよう』『笑いとお楽しみのある自立した生活をしよう』『自然とのふれあいを大切にしよう』『地域との交流を深めよう』のもと、常に利用者が笑顔で暮らせるよう配慮しています。地域のお祭り・盆踊り・敬老会等に参加し、事業所にも幼稚園児や日舞等のボランティアが訪れ地域住民と積極的に交流しています。事業所主催の親睦会には、利用者・家族・職員・ボランティア多数の参加で町公民館において、玉入れや懐かしい歌を歌ったり、ボランティアが前日より準備してくれた豚汁・おしるこ・お赤飯等の料理を皆で頂き楽しいひと時を過ごしています。家族も普段と違う輝いている利用者の姿に感激しており、利用者・家族・職員・地域の和を大切に日々笑いあふれる暮らしになるよう努力しています。普段もユニット毎に特色があり、歌が大好きなユニットでは町主催の芸能大会のDVDを見ながら一緒に歌ったり、出演している馴染みの人の話しをしながら昔を懐かしんでいます。職員同士のコミュニケーションも良く、利用者が、安心して穏やかに生活しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットのフロア内に掲げ、利用者様・来客者・職員がいつも観覧できるようにしています。利用者様個々の尊厳を保ち地域・自然とのふれあいを持てるように支援しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り、職員全員が確認出来るようフロアの見易い場所に掲げ、ケアサービスに活かしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児、幼稚園児と交流したり、地域の行事にも参加し交流に努めています。	地域の一員として盆踊り、収穫祭、お祭り等の行事へ参加しています。窓拭き・草取り・行事の手伝い等のボランティアもおり地域とのふれあいを大切にしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時で、参加者に認知症についての説明などを行うようにしております。また、町主催の認知症講演には、施設長が講演を行い地域の人々へ広めています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月毎に会議を開催し、町職員、町内会長、ボランティア、家族、施設長、管理者が参加し状況等報告を行い、そこでの意見や内容をサービス向上に反映させています。	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的で開催され、利用者の状況報告、事故・アクシデント報告、研修報告を行い活発な意見交換のもと、出された意見はサービス向上に活かしています。質疑応答や、意見など詳細に記録した議事録を作成し、いつでも閲覧出来るようにしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と電話や訪問などで連絡を取りケアの状況を報告し、相談、助言、指導を受けながら連携を取り協力関係を築いています。	利用者が関わる行政機関と常に連携を図り、情報交換や相談に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ないケアを行っています。	身体拘束に関する研修会を実施し、職員の理解を図っています。禁止や命令的な言葉も拘束に繋がるとも話し合っており職員同士、情報を共有しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の介護において些細な言動も虐待とならない様に配慮し、研修や月一回の会議で職員間で注意・検討し防止に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在に至るまでに対象となる方はいなかったが、勉強の機会を設け職員は権利擁護の重要性を理解しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を全て書面と口頭で行い、十分な説明を行い理解・納得を得よう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全家族へ運営推進会議への参加を呼びかけ意見を聞けるよう努めています。また、玄関先の意見箱や苦情相談窓口の設置をしています。職員は日々入居者様の意見を聴くよう努めています。	運営推進会議に家族が参加しており、意見や要望を汲み取るよう心掛けています。親睦会や家族来訪時も大切な機会と捉え、信頼関係を築くよう努め運営に反映しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で意見や提案を聞くよう努めています。また、日々の業務の中でも職員の意見や思いを聞き、反映に努めています。	管理者と職員は、毎月の会議や日常的に話し合いがもたれ介護計画に反映させたり、業務の改善に繋げています。管理者職員は、意見や思いを気兼ねなく言える関係を築かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績を考慮した賞与、昇給制度や手当の見直し等取り入れ、向上心を持って働けるよう勤務状況の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のケアの力量や入居者様の状態合わせた研修・講習への参加を積極的に呼びかけています。また、職場内の勉強会等の実施もしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の役員として、連携を積極的に図り、同業者との交流の機会が持てるよう取り組んでいます。研修を通じた相互訪問の機会も確保しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、入居日の面接等でご本人の困っている点・要望等を聞き、必要なことを実施・配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面接でよく話を聞いて関係を築き、安心して入居出来る様に準備・配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望は積極的に取り入れ、必要があればリハビリ等を含む他のサービス利用の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に作業する事で、調理方法やその他多くのことを教えていただけたりと支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを聞き大切にしながらご本人にとって何が最適かを共に考えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内出身者が多いので町の行事や美容室、理容室を利用し地域との関係を途切れない様に努めています。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できるよう支援しており、理・美容院、墓参り等利用者の大切な場所や人と交流出来るよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し個人の生活ペースに合わせながら人間関係がうまくいくように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙等のやり取りを行い、契約が終了しても本人や家族が気軽に来所出来るように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望及び日々の会話からも察し把握に努めています。	日頃の関わりの中から言葉や動作で希望や意向について把握するように努め、把握が困難な場合は家族から情報を得て、利用者の意向に添うように配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日常のご本人との会話、センター方式の活用を基に把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りを実行。日々の中で変化等職員間で情報を共有し記録を残す事で把握できるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズを把握し家族とは面談を実施して希望や要望を聞き、本人とは直接的な話し合いや日々の関わりの中で気付いた思いをくみ取ってまた本人の言葉や気持ちを取り入れながら介護計画を作成しています。	日々の状況を観察し、モニタリング・サービス担当者会議をもとに、利用者・家族・職員の思いをプランに反映させその人らしい暮らしを支えるための具体的な介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況、発言を記録に残しケアの実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の買い物や通院、退院後のサービス等、ご本人やご家族の状況に合わせた支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・町内会等の方々の協力を積極的に取り入れています。また定期的な訪問を計画し協力を得ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人とご家族の希望を常に確認しかかりつけの病院への受診。又状況に応じて往診をいらいしたりして適切な医療を受けられる様支援しています。	医療機関への受診は利用者の今迄のかかりつけ医を基本とし、家族が同行していますが、状況によっては事業所が支援をしています。協力医や歯科医師の往診が有り口腔ケアを始め、健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に見護師が健康管理を行っています。日々の健康管理は介護職員によって行い異常があれば看護師に相談出来るようになってい		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も利用者と面会し家族や病院と情報交換をし退院後のケアに繋げていきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針は入居時にも説明をさせて頂き、状態の変化があれば再度説明し方針に対するご家族の意向の把握に努めています。特定の職員だけではなく全職員が情報の共有に努めています。	重度化した場合や終末期の対応については、利用契約時に説明をして理解を得ています。昨年は2名の看取りケアを行っており、家族、医師、職員の連携のもと一丸となって取り組んでいます。時期がずれた新しい職員への研修は、ケアマネジャーが指導を行い全員が支援できる体制を構築しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防職員の指導のもと救急救命講習を終了しており新規職員についても随時講習を受けるようにしています。又マニュアルを見える所に置いてあり繰り返し学習出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し近郊の地域の方々とは会合を通じて協力を要請しています。	年2回消防署の指導を得て、避難訓練を実施し火災への対策をとっています。備蓄についてはミネラルウォーターとカップめんを用意しています。	火災への避難訓練はしていますが、その他の災害に対する対策はこれからの課題になっています。あらゆる災害対策と、地域住民の協力体制を構築する事が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアル等を確認・把握しつつ、一つ一つの言動に配慮しています。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを傷つける事の無いような声掛けや、対応に心掛けています。特にトイレへはさりげなく誘導に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを図る事により利用者の希望を引き出すように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを守り希望に添えるように支援しています。外出や食事についても希望に添えるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度美容師の方にカットボランティアに我所して頂き身だしなみやおしゃれが出来るように支援して頂き、又ご家族やご本人の希望も聴き、馴染みの理容室、美容室を利用出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見せて好みの物を選んでいただいたり、食べたい物を伺いながら調理しています。又準備片付けは本人の体調や状態に合わせてお願いしています。	毎日の食事の献立はその日の材料や利用者の希望や様子を見ながら担当する職員が、一緒に調理しています。刻み食等の状態に合わせた提供をしていますが、殆どの利用者が自立しており楽しい時間を共有しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態、体調に合わせて食事提供を行っています。水分摂取量はその都度記録を取り十分な水分量を確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている利用者に関しては声掛け、見守り等行っています。介助の必要な利用者に関しては口腔保清の支援に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導や介助し自立を支える支援を行っています。	現在自立している利用者が多く能力が低下しないように一人ひとりについて、介護記録と排泄チェック表でパターンを把握して時間誘導等それぞれに合わせて適切な支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に乳飲料を飲んで頂いたり、ヤクルト等の乳酸菌飲料を提供し飲んで頂いています。又散歩や軽い運動をし便秘予防につなげています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっておらず入浴日は利用者の希望やタイミングによりいつでも入れる支援を行っています。入浴拒否の利用者については意思を尊重しつつ対応する支援をしています。	毎日入浴する方や、希望する時間がある方等一人ひとりに合わせて支援をしています。又、最低でも週2回程度の入浴が出来る支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の時間をずらす、居室以外の場所を提供してみる等、安眠を得られるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬確認表での服薬の確認、服薬している処方内容を確認しています。症状の変化が見られた時には看護師や医療機関等連絡し指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、カラオケや塗り絵など、個々の昔からの趣味や今現在行える事を把握し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩も体調に合わせ天気の良い日には積極的に取り組んでいます。又冠婚葬祭等も家族と話し合い介護タクシー等利用したりしなるべく参加できるよう支援しています。	気候が良い季節にはその日の天気や利用者の状態に合わせ、積極的に散歩やドライブに出かけています。町の行事や遠方への芝桜見学、また近郊のショッピングセンターへ買い物に出かけたりと日常的に外出支援に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出掛け購入の手助けを行っています。ご本人の希望があればご家族の同意のもと少額を本人で管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得たうえで、希望時以外にも電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて模様替えを行っています。また、行事の写真等を掲載しております。	それぞれのユニットには明るく開放的な雰囲気と、落ち着いた雰囲気と特徴があり、居間の壁には季節に合わせた飾付けや行事の写真が飾られ楽しい雰囲気を作っています。嘗ての、芸術文化祭のDVDを見ながら共に楽しむ事が日課になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファーが置かれ、テーブルの配置等も気の合う利用者同士座れるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を安全面を考慮したうえで配置させて頂いています。	居室には使い慣れたベットや筆筒等の家具や、人形やぬいぐるみ、ぬりえ、川柳の短冊等、趣味の物が飾られ利用者が居心地良く過ごせるように工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日時がすぐに分かるように見易い所にカレンダーや時計を配置しています。また必要な所に手すりを設置し安全に行きたい所へ移動できるようにしています。		